

## アンニョンハセヨ！韓国語

科目責任者：小島遊 信 子（語学・人文教育部門）

### I. 前 文

韓国語入門講座として韓国の文字「ハングル」の習得に重点をおき、ハングルの仕組み、発音、基礎文法について学習する。

### II. 受入可能人数

人数制限は特にありません。

### III. 担当教員

小島遊 信 子（語学・人文教育部門）

### IV. 学習内容

ハングルの仕組み、発音、基礎文法について学習する。

### V. 学修の到達目標

- ・ハングルの発音、読み書きができる
- ・基本文型を理解し、応用できる
- ・韓国語に興味を持ち、今後継続的に韓国語を学習するための基礎を築く

### VI. 評価方法・基準

自主学習レポート提出と口頭試験（一人20分）

### VII. 教科書・参考図書・A V 資料

- ・参考書：教養韓国語 初級 朝日出版社
- ・必要に応じてプリントを配布する。

### VIII. 質問への対応方法

講義中、もしくは講義後に受け付ける

メールアドレス：y-nobuko@dokkyomed.ac.jp

### IX. 求められる事前学習、事後学習およびそれに必要な時間

事前学習と事後学習：毎日10分間音読すること

### X. コアカリ記号・番号

（医学教育モデル・コア・カリキュラム令和4年度改訂版）

学習目標

GE-04-02-01 人の言動の意味をその人の人生史・生活史や社会関係の文脈の中において検討できる。

LL-01：生涯学習 生涯学び続ける価値観を形成する。

CM-01-01-01 言語的コミュニケーション技能を発揮して、良好な人間関係を築くことができる。

CM-01-01-02 非言語的コミュニケーション（身だしなみ、視線、表情、ジェスチャー等）を意識できる。

SO-06-01-03 個や集団に及ぼす文化・慣習による影響（コミュニケーションの在り方等）を理解している。

## XI. 課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法

課題に対するフィードバック：講義中もしくは講義終了後、LMSで行う。

## XII. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

\*◎：最も重点を置くDP      ○：重点を置くDP

| ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針） |                                                                    |   |
|--------------------------|--------------------------------------------------------------------|---|
| 医学知識                     | 人体の構造と機能、種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い、他者に説明することができる。         |   |
|                          | 種々の疾患の診断や治療、予防について原理や特徴を含めて理解し、他者に説明することができる。                      |   |
| 臨床能力                     | 卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け、正しく実践することができる。                            |   |
|                          | 医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。                                       |   |
| プロフェッショナリズム              | 医師としての良識と倫理観を身に付け、患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。              |   |
|                          | 医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け、患者やその家族、あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。 | ○ |
| 能動的学修能力                  | 医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。                          | ○ |
|                          | 書籍や種々の資料、情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し、自らの学修に活用することができる。                   | ○ |
| リサーチ・マインド                | 最新の医学情報や医療技術に関心を持ち、専門的議論に参加することができる。                               |   |
|                          | 自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち、実践することができる。                              |   |
| 社会的視野                    | 保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し、自らの行動に反映させることができる。                       |   |
|                          | 医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け、自らの行動に反映させることができる。                      | ○ |
| 人間性                      | 医師に求められる幅広い教養を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。                         | ○ |
|                          | 多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。                    | ○ |